

平成28年度

氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校

学校評価報告



【H29氷川中をリードする生徒会】

氷川町及び八代市中学校組合立 氷川中学校

校長 中 島 綱 紀

平成28年度氷川中学校『学校評価』報告書

1 校内評価から

(1) 教職員による教育評価

『2学期の教育評価』結果では、大概において1学期末での評価を上回っているし、1～4段階評価の平均2.5より高い。教職員は本校の教育活動をマイナスには観ていない。その中でもやや低く評価している項目として、①一人一人のニーズに対応する特別支援教育、②UDの視点に立った分かる授業がある。また、やや高く評価している項目として、③ICTの活用、④地域との連携を挙げている。①については本校の課題でもあった。特別支援教育の配慮を必要とする生徒が通常学級にも複数いる。それらの生徒についての情報交換の場を週に一回設定しているが、その場限りの情報交換が多く、具体的な指導・支援が共有されなかった。解決の対策として、12月末に特別支援教育校内委員会をもち、配慮を要する生徒の支援計画及び指導計画を担当と特別支援教育コーディネーターで作成することを決めた。関係学年の会議を経て1月の職員会議において全教職員で共通理解を図り、それに基づいて対応している。②については、後の「校内研修の評価」で課題と対策等を報告する。③については、11月30日に行った研究発表会までの実践の積み重ねもあり、全教職員が自信をもって授業を行っている。しかし、授業でのタブレットの使用頻度は決して高くはない。教職員に、氷川町で多額の経費を負担してもらっていることを説明し、それに見合う実績を上げるように指導している。現在では、自分の授業でどれだけ使用したかを一週間ごとに報告するようにしている。④については、コミュニティスクールの取組が教職員とCS委員と一緒に楽しんでなされている成果と言える。地域の祭りや行事に生徒がよく参加しているし、地域の人たちに学校にもよく来ていただいている。教職員と地域の人たちが直接に関わり合う機会がとても多い。



(2) 反省と今後の対応

地震によるスタートの出遅れにより1年生への年度当初の指導が徹底しなかった。そのため年間を通して生徒による問題行動や不登校が続いた。二学期は1年生担任の一人が不在だったため、学年主任が担任もかねて対応に当たった。事象については随時他の教職員にも伝え、共通理解のうえで指導に当たってきた。そのような日々が続き、11月末の研究発表もあって、所属目標として設定した三点のことについてスモールステップで振り返ったり点検したりして修正していく機会をなくしていた。所属目標の達成のためにチームとしての動きができていなかった。

客観的視野をもって冷静に組織を動かすべき校長が、目の前の問題解決にとらわれてしまい適切な指示をしていなかった。そのために、教職員の職務を支え切れなかった。この

反省をもとに、次年度は年度当初から面談や話す機会を多く持ち、教職員一人一人の教育への思いを受けしっかり止め、認めることから組織作りを始める。

2 熊本県学力調査結果（県平均との比較）

（１）県学力調査結果

1年	国語	社会	数学	理科	英語
総合	+5.3	+3.4	+0.5	+3.5	-4.9
知識	+2.7	+1.5	+0.4	+0.8	-2.9
活用	+9.9	+6.3	+0.7	+6.4	-8.8

2年	国語	社会	数学	理科	英語
総合	+3.0	-1.0	+7.6	+5.6	+2.5
知識	+3.0	-0.9	+6.8	+9.3	+0.9
活用	+3.0	-1.3	+8.9	+1.1	+3.5

（２）意識調査結果（ ）は1・2年生のみ

○勉強でわからない内容があったとき、先生や友だちに聞いたり、調べたりする努力をしている。

「よくしている」「まあまあしている」78.5%（79.3%）

○前の学年の内容をもう一度先生に教えてほしい。

「とても思う」「まあまあ思う」67.7%（60.9%）

○授業で難しい内容を勉強したり、難しい問題に挑戦したりする時間を増やしてほしい

「とても思う」「まあまあ思う」55.4%（60.9%）

○授業時間以外に、毎日2時間以上は勉強する。30.8%（32.2%）

○授業時間以外に、ほとんど勉強しない。7.7%（5.7%）

（３）分析と考察

1年生社会科でやや、2年生英語科で県平均を下回った。両教科については担当で分析している。社会科にあっては、一学期の地理分野の基礎についての指導が徹底していなかった。英語科にあっては未習の内容を解かせていたことと「話す」指導方法（ALTとの連携指導）に問題があったと振り返っている。

生徒の意識調査からは、学力が高い生徒と学びが苦手な生徒が両極化している。学びが苦手な生徒たちは学習への意欲が低く、授業へ向けての積極性が高くはない。また、家庭での学習意欲も高くはない。

昨年度までの生徒の実態を鑑み、研究の取組として

「ユニバーサルデザインの視点に立った授業の創造～学ぶ意欲を高めるICTの効果的な



活用を通して～」というテーマを設定し実践を続けてきた。学びが苦手な生徒の学ぶ意欲を向上させることで、全体的な学力の向上を期待していたのだが、その成果があったとは言えない。研究授業を主とした研究の在り方は良かった。しかし、それが日頃の授業に活かされていたとは言えない。

(4) 今後の対応

研究として全教職員で実践してきたことが、日頃の授業に活かされていないことを受けて、以下の事に取り組む。

① 生徒に教職員の授業を評価させる

〇〇先生は、UDの視点に立った授業をやっているか？ひかわ型学習による授業か？ICTをよく使っているか？の三点について項目立てて生徒にアンケートをとる。

② ①の評価をそれぞれが自己分析し、H29年度の指導方法の改善点を明確にする。

それぞれの授業担当者が、自分が持つクラス全てでアンケートを実施し、自分の日頃の授業を自己採点する。

③ ②をもとに年度始めに各自で、年間を通しての改善の目標と具体的な取組を掲げる。各自で、アンケートから見えてきた課題をもとに、改善すべき点を明確にし合う。

④ 校内研究は、新たな取組をやるのではなく、③の徹底に全員で取り組む研究とする。

H29年度研究のテーマは、評価に挙げた三点を徹底することを趣旨として設定する。



3 心のアンケート～楽しい学校生活をおくるため～

(1) アンケートの結果

○学校が楽しい、まあまあ楽しい 94. 7%

○授業がわかる、まあまあわかる 84. 2%

○自信のあることや自慢できることがある 78. 2%

○今の学年でいじめられたことがある 16人

○今(12月)もいじめが続いている 7人

1年 女子A 男子に大根足と言われる 学年主任に相談中

女子B 部活で下に見られている 部活動担当に相談し解決

女子C 友だちにさけられている 学年主任に相談し解決

女子D ときどき友達にひやかされる 学年主任に相談中

2年 女子E クラスの人にいやなことをと言われる 養護教諭に相談し解決

男子F クラスの女子に嫌なことをと言われる 学校相談員に相談し解決

3年 女子G 男子Mからよく叩かれる。担任に相談し解決

(2) 考察

学校が楽しいかについては、楽しくないと答えた生徒は1年男子2人と女子5人。

自信のあることや自慢できることがない生徒が1年男子2人女子1人、3年女子3人。個々に観察しても、けっして内気な生徒ではない。どちらかという元気よく笑い声もよく聞かれる。それでも自己の能力や可能性を低く見積もっている。学級活動や行事等で活躍の場を与える。

いじめが続いていて相談中の生徒が2月末時点で2人いる。職員会議でこの事実については全教職員で共有している。対応は主に担任と学年主任でやっている。2人については、その他の事で配慮をする必要もあり、全教職員で対応している。



(3) 今後の対応

友人関係のトラブルが続く1年生については、そのたびに相手を思いやることを指導していく。また、保護者にも丁寧に対応し共に子どもを育てていくよう話していく。今後も、互いを思いやれる学級・学年づくりを続ける。

学校全体としては、生徒たちと教職員がチームでコミュニケーションをとりながら大きな目標に向かう経験の場を特別活動の中に意図的に設定し、生徒たちが互いに関わりあいながらトラブルを解決していくことに取り組ませる。また、正義を行う生徒を学校全体で褒め称えとともに、全ての生徒がみんなの前で認められる機会を意図的に設定する。

4 関係者評価（学校運営協議会での外部評価）

学校運営協議会では、年度末にそれぞれのCS委員が、氷川・龍峯町民を対象に、氷川中CSの取組についてと氷川中生徒・教職員への意見や要望についてアンケートをとって尋ねている。

(1) アンケート結果

対象 学校ボランティア、氷川町農・商関係者、町行政の一部、氷川町民生委員、龍峰町民生委員、保護者PTA役員 教育委員 計84人

(2) 回答結果

質問1 あなたは、氷川中学校が氷川町・龍峯町とともにある学校づくりをしていることを知っていますか？ はい90% いいえ7%

質問2 氷川中学校生徒は、町の元気づくりのために貢献していますか？ はい80% いいえ0% どちらもない10%

質問3 氷川中コミュニティスクールの以下の取組について、知っていることや見たこと

三神宮秋の例大祭花馬・神輿奉納 農家での農業体験 商工店・事業所での職場体

験 チャレンジショップでのバザー 敬老会でのソーラン披露 夏祭りでのソーラン披露 夏の総踊り参加 地蔵祭りでのソーラン披露 氷川中OB「氷川会」による生徒応援 町のボランティアによるフッ化手伝い 読み聞かせボランティア 保護者主催のPTA講演会 あいさつ一斉行動の日

質問4 氷川中からの月一度の広報紙「氷川中の風」を知っていますか？

はい63% いいえ20%

質問5 氷川中の生徒に、どんなことを求めますか？

(主な意見)

- ・元気の挨拶・故郷を大切にする心・地域のために活動すること・思いやる心
- ・町の活性化への貢献を続けてほしい・地区の行事への参加 等

質問6 氷川中の先生たちに、どんなことを求めますか？

(主な意見)

- ・生徒たちとよく関わってほしい・厳しい指導・生徒の自主性を伸ばす
- ・校区との懇談を増やす・いじめのない学校・丁寧な言葉遣いの指導 等

(3) 考察

CS委員たちが自分たちで、回りの町民にアンケートを実施し、その結果を報告し合った。CS委員たちが、自分たちで自分たちの取組をしっかりと総括しようという意欲がうかがえた。結果を概要すると、氷川・龍峯町民は、氷川中生徒が町のいろんな場所で交流をしているのは知っているが、それがCSの取組だとは理解していない。「コミュニティスクール」という言葉は、関係者ではあたりまえに使われる言葉だが、一般の町民にはその意味が理解されてはいない。

アンケートの回答について、CS委員で熟議を重ねた。「活動を重ねるたびに、氷川中CSの取組は町民に知られるようになってきた。」という意見に集約される中、「CS委員だけの自己満足になっていないか。」という自己反省もあった。地域とともにある氷川中から地域に貢献する氷川中へのステップアップを目指して、①企画計画から生徒と連携していく。②年間計画づくりと次年度への総括は、CS委員と教職員が一緒になって熟議・検討・決定する。③CS委員がより主体的に活動することで、CSの取組を充実させてきた。昨年度よりも、教職員が楽しんでCS委員と共に活動していた。また、保護者も巻き込んでCSの取組の輪が広がってきた。しかし、町民への理解は広がっていない。



(4) 今後の対応

CS委員による熟議を経て、氷川中学校運営協議会長から校長に対して「次年度も内容をより工夫して楽しいCSにしましょう。また、今年度同様に先生たちとCS委員が一緒にな

かり育て、真の学力をつけることは当たり前であり、これからは、さらに地域と一体となった教育を目指さなくてはならない。そのことを負担ととらえるか楽しみととらえるか、教職員一人一人に問われている。また、負担を楽しみに変える学校経営が校長と教頭に求められる。氷川町にある学校という最大の利点を教職員が改めて理解し、この町でならやれる学校教育を追求していかななくてはならない。氷川中は、生徒・教職員・保護者・CS委員が一体となったチーム氷川中で『ザ・氷川中』を目指す。